アイヌタイムズ 第34号　日本語版

★ 銀ギツネ

銀ギツネというキツネがいます。女性は、毛皮のコートでおなじみでしょう。全身黒い毛色の中に白い毛が混じって、銀色の光沢を持つキツネです。

銀ギツネは、普通のキツネと同じ種類なのですが、劣性遺伝のため、ごくまれにしか産まれません。

国によっては、銀ギツネのまったくいないところもあるそうです。北海道の銀ギツネも、起源は和人が養殖のために持ち込んだ銀ギツネが逃げ出して野生化したものと言われることがよくあります。

でも、本当にそうなのでしょうか？

北海道における銀ギツネの養殖は、1917年（大正６年）に輸入されたものが初めであるといわれています。

寛永時代に上原熊次郎が書いた「もしほ草」（アイヌ語辞書）の中に、「シツ゜ンピ」「クン子シユマリ」という言葉があります。どちらも日本語で黒狐と書かれていま

す。

ジョン・バチラーの辞典にも、黒狐という意味で「shitube」そして「shitumbe n. A fox (principally the black fox)」という言葉があります。

知里真志保は、次のように書いています：「situmpe は、キツネに対する敬称である。キツネの中でも、アイヌにもっとも貴ばれるのは、クロキツネなので、この語を特にクロキツネの意味に用いることが多い。クロキツネをふつうは、kunne-situmpeという。」

（知里真志保(1973-74)『分類アイヌ語辞典』動物篇、p.144, 145、平凡社）

萱野茂のアイヌ語辞典には、以下のように書かれています；「黒狐は位の高い神なので獲った場合には、その頭を神として祭れば運がよくなるものだ。めったに獲れないので、獲ったら頭骨を神として魂を入れて守護神にするといい。」

（萱野茂(1996)『萱野茂のアイヌ語辞典』、p.221, 222、三省堂）

久保寺逸彦のアイヌ語・日本語辞典稿には、狐の神（狐の頭骨）は、shitumpe kamui とあります。

（久保寺逸彦(編)(1992)『アイヌ語・日本語辞典稿』、p.255、北海道教育委員会／北海道文化財保護協会）

松浦武四郎は、次のように言ってます：「「クン子チロヌプ」、「シツンピ」（黒狐）は、シコタン島に産す。また舎利（斜里）辺にても時々捕ること有。露西亜人（ロシア人）、山丹人（サンタン人）等至而（とういたって）是（これ）を愛するとかや。また三毛の物有。島(縞）チロヌプと言う。」

（松浦武四郎選集二、名産図会、p410-413、北海道出版企画センター）

このように、銀ギツネの養殖が始めるより前に、アイヌ語の中に黒いキツネを意味する言葉があったのです。

北海道立衛生研究所の浦口宏二さんは、このkunne-situmpe やら、kunne-sumari やら、kunne-cironnup が銀ギツネのことではないかと考えています。

昔、猟で、黒ギツネのようなものを獲ったり、子供のころにこれを見た人はいないでしょうか？　もし、そういう方がいらっしゃいましたら、次のURLにある写真のキツネと同じかどうか、浦口さんにお知らせください（TEL 011-747-2769）。

http://aynuitak.at-ninja.jp/silverfox3.jpg

http://aynuitak.at-ninja.jp/silverfox4.jpg

［横山　裕之］沙流・千歳